

HSK NPO 法人「文福」ニュース



「障」ちゃん



NO.275

冒頭の一言

皆さんがこれを手に取るころには 2023 年を迎えているかと思いますが、2022 年はどうだったでしょうか？世界的なニュースから身近な出来事まで様々なことがあったかと思います。

2022 年も引き続き新型コロナの影響があったと思いますが、世の中の的にはだんだんと緩和の方向へと進んできていますね。規制緩和や旅行支援などで行動の幅がコロナ禍以前とはいかなくても、徐々に戻ってきているのではないのでしょうか。以前の様にいつまで続くのだろうか？という先の見えない不安からは少しずつですが前に進んでいる気はします。

2023 年も歩みは遅いと感じるかもしれませんが、それでも確実に進んでいると実感できるような年になるといいですね。

ゆき

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	新年のご挨拶 … 2	新スタッフ紹介 … 3
ザ☆カイジョ報告 … 4-5	連続学習会報告 … 6-9	
マイナンバーカードの案内は不親切です 河上千鶴子 … 10		
私がノーマスクの理由 八木勝自 … 11-12		
アルバイト紹介 … 13-15	penko … 16	まっち原稿募集 … 17
運営会議報告 … 18-19	ありがとうコーナー … 20	

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
工 一
九 九
四 年
八 月
四 日
第 三
種 郵
便 物
承 認
一
一
三
、
一
五
、
一
八
、
二
十
、
二
三
、
二
五
、
二
八
日
発
行

年頭の挨拶

NPO法人文福 理事長 福田文恵

この文章を作成しているのは、12月の初めです。年頭の挨拶と言われても正直なところまだピンときていませんが、挨拶だけはさせていただきます。

本年も皆様にお世話になりました。

ここ数年コロナ禍で活動は中止状態になっています。幸い文福の障害者スタッフでコロナになった方は今のところいませんので、奇跡かなと思っています。(今後こんな風に思っていると誰かかかるのでしょうか)

皆様はこのコロナ禍いかがお過ごしでしょうか。ストレスなど溜まりますよね。いつまで続くのやら。どういう形で終息していくのかが気になるところです。早くマスクをしなくても良い時が来ればなあと思っています。

近年コロナ禍もあるのですが、障害者スタッフの高齢化が進み、車が無いと動きがとれないこともあり、社用車を1台増やし、活動をやすくします。

数年前から課題になっている事務所の移転も具体的に実現の方向で考えていこうと思っています。

2023年は、文福が出来て丸20年になります。本当は20周年ということで何か催しをすれば良いのですが、このご時世残念ながら出来そうにはありません。

コロナ禍も終わり、以前のような生活に戻るといって希望を持っていきたいと思えます。

皆様も来年1年何事もなく平和に暮らせますようにお祈りいたします。来年も文福をどうぞよろしく願いいたします。



よろしくお祈いします

文福スタッフ 浦上 孝徳

皆さん、はじめまして。今年の 8 月から文福で勤務しております、浦上（ウラガミ）と申します。医療従事者として約 13 年にわたり病院勤務をしておりましたが、元々興味があった障害福祉分野で働いてみようと思い、現在に至ります。

利用者に関わる中で感じることは、「自己決定」の大切さと、コミュニケーションの重要性です。医療現場で働いていながらも、その部分がおざなりになってしまっていたことを、日々痛感しています。利用者から学ぶことは、本当に多いです。これからもその学びを大切にしながら、頑張っていきたいと思っています。

趣味、というか日課は、毎日のランニングです。飽きやすい自分ですが、ダイエットがきっかけで 8 年前から走り始めましたが、意外と長続きしています。自慢できる記録もなく、決して速くもないですが、雨でも風でも雪でも気にせず、時間があれば走るだけ、それだけです。



ザ☆カイジョ報告

先日、今年度第 2 回目の県指定 重度訪問介護従業者養成研修「ザ☆カイジョ」基礎課程を 10 月 15 日（土）16 日（日）サンフォルテで、追加課程を 10 月 29 日（土）にサンシップとやまにて行いました。

最近新しいスタッフやアルバイトが数名入られたのと、前回希望されていたデイサービス事業所の方を含め、男性 3 名と女性 1 名が受講されました。各課程の一部を報告を交えて紹介します。

基礎課程では 2 日間あり、1 日目は「基礎的な介護の技術」という内容で、福田理事長の講義がありました。介助・介護の違いや介助に入る上での心得として、常に相手の立場に立って、相手の意思を尊重することや、食事や外出などの介助について細かく説明されました。

2 日目は「基礎的な介護技術について」2 人 1 組になって椅子に座っている人や寝ている人の体勢を整えたりなどの実習を行いました。

追加課程では、コミュニケーションの講義があり、講師の大野さんの紹介に始まり受講者の方から大野さんに質問をするというスタイルで行いました。パワーポイントでどんな生活をされているか紹介されました。外部の医師から「医療的ケアを必要とする利用者の障害及び支援」について救命救急やインフルエンザ・コロナウイルス、床ずれのことなどを学びました。

講義中、受講された皆さんと講師の方が積極的に語り合っている雰囲気が見られました。

今年度、期間中に参加された受講者の方やスタッフがコロナウイルスにかからず、全課程を無事終えることができました。受講された皆様、スタッフの皆様、ご協力頂きありがとうございました。

最後に受講された方々から感想を頂きましたので、一部抜粋して原文のまま掲載します。

報告者 森田

《基礎課程》

- ・重度訪問介護というものを初めて知りました。そしてそのサービスを行い、受けている人から生の声が聞けたことはとても良かったです。
重度訪問介護は正直すごく難しいことをしているなと感じました。(中略)
介助は自分で考え、自分で動く必要があるのだと感じた。また相手との信頼関係がとにかく必要なのだと思いました。今の自分にいかさせそうな話もあり、おもしろかったです。
- ・とても心に響く講義でした。(中略) 特に印象に残ったのは「介助を受ける事のストレスを理解する」です。「介助に関わる」ということの重さをもっと自覚し、利用者の不安感を理解し、何でも聞きますよ！というオーラが大切とアドバイスされていたことです。

《追加課程》

- ・緊急時の対応はとても勉強になったし、仕事以外の場面でもしっかり対応していけるようになりたいと思った。
特に、脱水症状や発熱については介助中に経験したこともあったが、まだ自己判断ができなかったため、どのように対応したらよいかこれから学んでいきたい。
- ・どんな世界にもコミュニケーションは大切である。今日痛感したのは子ども扱いはしないという事。自分ではした事はないが、かといってタメ口でもよいのか？という事。それぞれ相手のとらえ方でそれは違うとは思うけど、仲間だから～という考えでお互いを尊重して気楽な会話によるコミュニケーションをとれば良いと思った。

【連続学習会】

映画上映会「私の中のあなた」報告

生命倫理と家族を考える多様な切り口！



11月26日、紅葉真っ盛りの環水公園隣にあるサンフォルテで映画「私の中のあなた」を上映した。映画はキャメロン・ディアスなど有名俳優が子役の脇を固める。原作はジョディ・ピコーの同名の小説(2006)だが、映画とはストーリー展開が異なるという。

アナ(11歳)は、白血病の姉を救うため、臓器を提供するドナー(デザイナーベイビー)として遺伝子操作でこの世に生まれた。

幼いころから姉のため、あちこち体を刻まれてきたアナは、「自分の体、自分の人生を守りたい。もう姉のために手術を受けるのは嫌!」と、両親を訴える。この衝撃的場面から物語は始まる。

愛するひとりの子どものために一切をなげうってきた母サラをはじめとして、家族に次々と動揺と苦悩が起こる。家族の死に直面した人がそのことにどう向き合っていくのか?それぞれの家族の姿が描かれるシーンの連続に、いろいろと考えさせられる。そして、アナの姉ケイト自身の心理描写も、一人の若い女性として繊細に描かれている。

愚問ですが、「家族」と「個人」どちらが大切?

上映後、短時間だが意見交換を行った。

時間軸が過去・現在など入り乱れて、わかりにくい部分はあった。これは、家族の一人ひとりが心のなかで過去の状況をたどることの映画表現だったのかもしれないが、その都度頭を切り替えなくてははいけなかった。意見①

ストーリーは、病気の子どもを治したいという母親の強い意志が家族の声を封じ、それによって起きる葛藤が描かれる。姉妹なのだから当然と、「私の身体は私のもの」というアナの基本的な人権は無視される。意見②「医者と親は怖い」意見③との感想も。確かに、専門家である医師と、愛情から発するものだからといって、親の意見には逆らえないように思われている。

一旦バラバラになった家族が再結成されるストーリーだとの意見もあった。意見④ケイトは死を受容し、親を訴えて腎臓の提供を拒否するようにアナを仕向けたことが途中で明かされる。意見⑤一見、仲のよさそうな家族だが、父も兄もそして母自身もそれぞれが孤独だったのではないか。ケイトは最後に海に行きたいとの願いを父に告げ、病院を抜け出した。激しく止める母を残して4人で海に行くが、母も駆けつけ、家族全員で楽しむ。その夜、母に自分や家族の歴史をコラージュした画集を渡し、息を引き取った。数年後、ケイトの望み通り、家族はそれぞれの思いを抱いてモンタナ州の湖のほとりに集まる。言葉には出さないが、家族の愛を感じながら生きているということだろうか。ハッピーエンドの演出にはちょっと納得いかなかった。

親の立場で考えると母サラの態度も理解できる、アナが親の言うとおりにしなくてよかった、ケイトが恋人と出会えてよかったという発言も。意見⑥

連続学習会では、これまで臓器移植、安楽死、遺伝子操作などの社会問題や生命倫理を揺るがすテーマを取り上げてきた。私たちが現在どのような問題に直面しつつあるのか、これからも、ともに考えていきたい。(堀江節子)

★ 映画「私の中のあなた」のDVDを購入しましたのでお貸しします。

映画『私の中のあなた』について

2022・11/26 四十物和雄

この映画を見るのは、すでに 5 回目くらいになるであろうか？原作も読んでみました。見るたびに新しい発見があります。ドナーベビーをめぐる話が回転していくのですが、「家族の愛と和解の物語」として括られていくあり方に対して、今回は違和感を覚えました。臓器移植を前提とした子どもを産む、というストーリーの設定が無理すぎるのです。ここから出てくるのは、うまれた子どもとほかの家族の関係の争いがメインになっていくのは必定です。「愛」が回復されるはずがないのではないのでしょうか？

映画は、「不信と争い」を象徴するかのようには、ドナーベビーであるアナが両親を裁判に訴える、というストーリーから展開されてゆきます。その過程の中で、両親や兄弟また弁護士、裁判官、友人たちの心の揺れ、動揺が描かれてゆきます。心の亀裂が深まっていく中でも、それを修復するかのような温かいエピソードも盛り込まれ、奥行き深い雰囲気を見せてくれます。

白血病をわずらっている姉ケイトの描写もリアリティがあるように思えました（実態がどうであるのが私は無知なので断定はできないのですが・・・）。姉の方も家族（特に母親サラ）から「生き抜くこと」を迫られ「ひとりぼっち」感を深めていく様子も次第に明らかにされていくあたりは、見事というほかない、と思います。（原作では、父ジェイソンと兄ジェシーの内面が描かれています。「家族の総意」である姉へのケアによって、それぞれが「ひとりぼっち」感に苛まれていくさまが浮き彫りにされています。）

家族それぞれが孤立を深めにつちもさっちもいなくなる、というこの映画の人間描写の確かさに、先の設定の無理さを通り越したところを見ました。

ストーリーとしての面白さという面での設定でしょうが、難病を抱えた家族の抱える複雑な現実を、ドナーベビー・裁判などという、対立が深い問題を法律や世論に訴えて「一挙に解決しよう」という方法は、劇薬としか言いようがない気がします。「人が人を支える」というのは大変なことです。その人が背負っている重荷を抱えようとするわけですから、支える人も危機に陥りやすい。当然その人も苦しくなるから、ほかの人に対して、支えを必要としている人にもつらく当たりやすくなる。そのような有様は、実はこの映画でよく描かれていると思うのです。人を支える人を支える、というつながりの連鎖を作って、気長に対処していくしかないと思うのです。

こういうことを考えるきっかけとなってくれ問題提起となってくれたならば、さらには感想を出していただければ、今回の映画鑑賞を提案したのものとして、うれしいです。

『私の中のあなた』の感想

中村かおる

白血病の姉ケイトを救うため、両親、いや母親の想いでスペアパーツを提供する存在として遺伝子操作が行われ生まれた妹アナだった。

この映画を観てに限らず、私はそこまでしてケイトの命を救わないとならないのかと疑問に思った。臓器提供して何とか愛する我が子に長く生きてほしい。という気持ちは分かる。が、私は何にでも神の領域というものがあると考えている。人の命にも神の領域があり、ある境を超えると死を受け入れなければならないと私は思っている。だが母サラの気持ちも理解できる。

私の母も「かおるの手、何とか動くようにならないかね～。母さんの片方の手をあげられるものならあげたいわ。」とか、「健康に産んであげられなくてごめんね。」とよく言われたものだ。

そんな母の言葉を聞き母の私に対する愛情を感じながらも、「ちょっとお母さん、障害者を、手が自由に動かせない事をそんなに不幸だとも思っていないのだけどな。」と母の想いを重荷に感じた事も多々あった。この映画を観ながら、そんな事を思い出していた。

私のこの思い出とは大分違うとは思いますが、ケイトもよく似た気持ちだったのではと思う。兄や妹、両親が自分を愛してくれている感謝の想い、だがケイトはとうに自分の病気を受け入れ死をも受け入れていた。

医者がケイトの最後を自宅で過ごされてはという提案に、母サラの異常なまでの反対、そこには娘ケイトに対しての深い愛、それと病院にいれば安全でいつか絶対に病気は治るという母サラのこっけいな程のヒステリックな思いに演技に、昔の私の母が重なり思わず苦笑してしまった。

この映画を観て色々と思い出し色々と考えさせられた。『学習会』の方々に感謝の意を示して感想の終わりにしようと思う。

マイナンバーカードの案内は不親切です

河上千鶴子

私は、8月に、今まで取っていなかったマイナンバーカードを、申請しようと思いました。それは、テレビのCMで、盛んに申請を勧めていて、家にも申請用紙とリーフレットが来ていた事からです。スマホからでも申請できる。また、今、申請して交付されたら、「最大2万円分のポイントが当たる」というのも申請しようというきっかけになりました。

まず、顔写真をヘルパーさんや連れ合いに何枚も撮ってもらって、いいような写真を選んで、申請しました。それからしばらくして、マイナンバーカード受付センターから、メールが来たのです。何かと思って読んでみると「顔写真が不備のため受付が出来ません」と書いてありました。「なんで? どういうこと」と思って、連れ合いに頼んで、コールセンターに電話をかけてもらいましたが、つながりにくいし、時間がかかって、ようやく相手が出て、理由を聞くと、「片目がつぶっている」(実際は少し開いていた)と言われたので、私の障害や癖を説明したのですが、相手は、「もう一度撮り直してください」と繰り返すだけでした。仕方がないので、また、何枚も撮って、相手に、確認してから送りましたが、顔写真については、何人もの人が何回も通らなくて苦労したと聞いています。

私は、腹の虫が収まらなくて、65歳問題の時に知り合った今は国会議員になっている人にメールを送りました。返事が来て「ネットのHPには、細かい注意事項が掲載されている」との事でしたが、「みんながみんなPCや携帯電話を持っていてネットを見れるわけではないですよ。配布物、郵送物に詳しく記載されていないことを問題だと思います」と言いました。そしたら「総務省に働きかけて、今後配慮する」という返事が来たという連絡が来ました。また、北日本新聞社にも来てもらい、話をして載せてもらいました。記事は、2022年10月18日(火)朝刊です。

今回のことで、強く思ったのは、国が国民に勧めている政策でも障害者や高齢者の事は、二の次であり、不親切である。いくら制度や法律があっても配慮しようという姿勢がないことがわかったのです。これからも、気が付いたら声をあげていかないとダメだと改めて決意しました。

『私がノーマスクの理由』

八木勝自

現在、当たり前のように私の周りでは、家で他人の介護者が来ても、みなコロナ予防のマスクをしています。しかし、私の判断は、はじめのコロナが流行し、周りの人達がみなマスクを始めた頃に、私もマスクをしようかと思ったときがありますが、新聞広告で、世のマスクはコロナウイルスを 90%通さないと書いてありました。私はこれを見て、コロナウイルスに限らず、マスクというものは 50%から 60%ウイルスを通さないものだと思っていたので、考えこんでしまいました。何故かというと、コロナウイルスを 90%通さないということは、他のウイルスも 90%通さないということで、これでは体の免疫が落ちてしまって、二、三か月、半年、一年とかけていると、体の病気への抵抗力が無くなってしまったり、弱くなっていくと思ったりしたのです。これが私のマスクをかけない理由ですが、その他に、今のマスクは大きくて、オーバーに言えば相手の表情も感情もわからなく、嫌だなあと考えたのです。国は国で外からはノーマスクにしたり家でも多くの人がいなかったらノーマスクを推奨しています。日本人の、長いものに巻かれる、というのは、将来的にも、精神的、肉体的に負担を与えてしまうと思います。

次ページの 11 月 19 日の北日本新聞に載っていた「指標」愛知県立大学教授の記事で、私も読んでいてわからなかったのですが、文章の内容はわからず、把握できない部分もありますが、つまり、清水教授はコロナウイルスは空気感染であって、唾液感染のつばの部分ではなくて、空気感染だからマス

クは有効ではないと言っているのですが、皆さんはどう思われますか。

愛知県立大教授 清水 宣明

視 標

新型コロナウイルス対策で「脱マスク論」が騒がしい。既にまん延し、季節性・流行性の感染症となつたのに、政府は危険度が高いと類相当の措置を続け、むやみにマスクの接種に焦る。流行開始から3年近くたつても日本の対策は地に足がつかず、不安だけが響く。

マスクは感染の確率を減らすための道具だ。マスクは感染を防ぐ効果が弱く、重症化阻止が主目的であり、変異株にも有効だ。こうした科学的な基本をないがしろにして右往左往している。

なぜこうなったのか、それは最初にも重大かつ根本的なポタンの掛け違えをしたからだ。

感染経路を厚生労働省などは「空気感染はしない。飛沫感染と接触感染だ」と根拠もなく決めつけた。その結果、外れな対策に突き進んだ。実際には新型コロナウイルスは非常に強力な空気感染ウイルスだったのだ。

呼吸器感染症のウイルスは感染者の呼吸中の水分粒子に含まれて排出され、それを他人が吸い込んで感染する。医学の教科書は、重くて速くまで飛ばない比較的大きな粒子による感染を「飛沫感染」、軽くて浮遊し速くまで届く比較的小さな粒子による感染を「飛沫核感染」、いわゆる空

新型コロナ第8波 空気感染対策にかじ切れ

19年から現職。専門は感染制御学。新型コロナウイルス流行の早い段階で愛知県立大などの空気感染対策を指導した。



清水 宣明
9年栃木県生まれ。山形大卒。群馬大大学院修了。2007年愛知県立大に赴任。

気感染とする。新型コロナウイルスは当初、未知のウイルスによる呼吸器感染症だった。ウイルスの性質はすぐには分からない。ただ、日本は早い段階でクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」での集団感染を経験した。飛沫や接触では、あのような大規模な感染は起こらない。感染経路として空気感染を除外してはならなかったのだ。

感染制御は危機管理だ。危機管理の鉄則は「最悪を想定せよ」だ。それを無視して、身勝手な都合に合わせて「飛沫と接触」と決めつけた。

都合の一つは教科書で「空気感染は、しかしウイルス、水痘ウイルス、結核菌」とされてきたこと。それ以外は空気感染しないという意味ではないのに教条的に決めつけた。もう一つは東京五輪・パラリンピックを控えていたこと。空気感染は印象が悪く対策も難しいため、不都合な真実を隠した。

海外では空気感染だと徐々に認識されるようになり、世界保健機関(WHO)や米疾病対策センター(CDC)は昨年、その対策にかじを切った。米政府は換気設備改善に莫大な予算をつぎ込む。換気対策がメインで、マスクはそれを補完するという位置付けだ。

しかし日本は違う。病院などで大規模な集団感染が相次いだにもかかわらず、国立感染症研究所は今年3月、ようやく「エアロソール(微粒子と空気の混合体)感染」を認めたが、いまだに「エアロソール感染と空気感染とは違う」などと非科学的な説明をつぶやく。飛沫核は物理的にエアロソールであり、エアロソール感染イコール空気感染だ。

これまでひたすら空気感染を否定し対策を「スリッド」したことで、死ななくてよい命をどれだけ死に至らしたか、関係者は自覚すべきだ。遅きに失したが感染流行の第8波が始まろうとする今、ポタンの掛け違えを正し対策を修正すべきだ。

過剰な手洗いは無意味だ。「新型コロナウイルスの主な感染経路は空気感染だ」と認識し、常時換気やマスクといった「吸い込まない」対策に集中しなければならぬ。

2022年11月19日 北日本新聞朝刊

こんにちは

文福アルバイト 高本 さやか
清香

こんにちは、高本清香と申します。

2022 年 5 月より文福でヘルパーのアルバイトスタッフとして働かせていただいています。

以前は、他事業所から文福の利用者さんのお宅にお伺いさせていただいていましたが、諸事情があって、文福のアルバイトスタッフにさせていただきました。

Wワークをしており、平日の昼間は製造業の会社で事務の仕事をしていて、文福での仕事は概ね夜です。

2021 年 5 月までヘルパーの仕事をしたことがなかったのですが、たまたま副業でやっていた運送会社の荷物の仕訳のアルバイトを辞めようと思っていたとき、ヘルパーのアルバイトを紹介され、頑張ってみることにしました。

まだまだ知識不足・経験不足で至らないところが沢山あると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



こんにちは

文福アルバイト 三井真知子

皆さん、こんにちは、4月から仲間入りさせて頂いている「三井真知子」です。

まだ、利用者さんとのコミュニケーション・意思疎通しつかり、取れてない状態ですが、焦らず、時間をかけて、深めて行きたいと思っています。気長に宜しくお願いします。

自己満足かもしれませんが、昨日より、今日、利用者さんの言われた事が、理解出来て、実行できた時に利用者さんがニコッと笑顔が見れたら、とても、満足感・達成感を味わっています。何度も何度も聞き直して、確認して、時間がかかり過ぎる時も多々あり、同時にコミュニケーションの難しさも感じています。

理解出来る事が1つ1つと増えるたび、喜びも増えています。さて、今まで、私は、4人の子育てを楽しみながら、近所の子どもたちを預かったり、保育園でのバイトや訪問介護や特別養護施設の勤務など、幅広く仕事を行なって来ました。

おかげさまで、「文福」で働かせて頂くことで、今までの自分の介護を振り返る良い機会が与えてもらっているなぁーと感じてます。

これまで出会った方々や経験・事柄が自分の人生をより豊かに・愛おしく大切に思えて、充実した時間を過ごしています。感謝申し上げます。

私の趣味は、読書と映画鑑賞と地域ボランティアです。

この10年程、地域の健康教室やサロンを企画運営して認知症予防を行っています。

「住み慣れた地域で、自分らしく過ごして欲しい」と思って、様々な角度から、企画運営しています。

今ハマってる事は、近所の方からの相談があり、「70歳からのシンプル料理で栄養を摂る」学びをしながら、身近な食材で、美味しく心も身体も健康に過ごす為について学んでいます。

マイブームは「サツマイモの茎と黒ニンニク」の栄養素と美味しい調理法を探求しています。

また、皆さんから、色々教えて頂きたいと思います。宜しくお願いします。





Penko のおひとりさま 珍道中!! (Part61)

最近テレビの番組などを見逃した配信や、動画アプリが見られるようになった。無料のものから、月額など様々である。テレビの他に、パソコンやスマホ・タブレットなどで見られます。

いつも利用しているのは YouTube (ユーチューブ) と TVer (ティーバー) と GYAO (ギャオ) どれも無料で見ている。

家庭にもよるが、自分んちはテレビ朝日系列とテレビ東京系列が見られないのですごくありがたい。今まで見られなかった番組の幅が広がった。アプリによって懐かしの映像も見られたりする。

見逃し配信を見るきっかけになったのは、実家で家族が見ていたから、その時見ていたのが米倉涼子さん主演のドラマ「ドクターX」だった。しかも米倉さん扮する大門先生が馬の手術をしていた場面に衝撃を受けた。それからハマり出し、自分のテレビでも見るようになった。もう一つは「ヤギと大悟」である。ヤギが主役の旅番組で、お笑い芸人「千鳥」の大悟さんがモンゴルの服を着て一頭のヤギ「タンポポ」(省略してポポと呼ばれている。)を引き連れ村や町を歩き、雑草に困っている家々をアポ無し訪問して、ヤギに雑草を食べさせて人助けをする雑草モグモグ旅なのである。あくまでも“ヤギが主役”で、ヤギの赴くまま進み、満腹になればロケは終了となる番組です。テレビ東京で第2弾まで制作され、富山でも8月にKNBで2週にわたり放映されました。その時はやっと録画でき保存版を作りました。

ヤギのポポ、大悟さん、ゲストの方、一般の人たちとのふれあいがおもしろくて、大悟さんがポポから離れたら「めえ」と鳴く場面もありました。

そして第3弾が1月2日に放映されるそうです。また富山でも放映されたらよいなあと楽しみにしているのである。

「まっち」原稿大募集

季刊誌「まっち」個人史・社会問題・そして人と人を結ぶことを目指し発行しています。

その「まっち」24号テーマ『落ち着く場所』を発行する事ができました。

これもひとえに皆さんが原稿をお寄せ下さったおかげだと思っています。この場をかりてお礼を申し上げます。m()m

さて、次号のテーマは『時代』です。

あなたの青春時代、幼少時代、生きてこられた中で忘れられない時代、歴史上の中で大好きな時代、「良い時代だったな。」「嫌な時代だったな。」とか、

『時代』について何でも書いて頂き、『まっち』にお寄せ下さい。

原稿締め切り 2023年1月末日 発行2月末

もちろん、他のテーマや詩や俳句、川柳、短歌、イラスト(絵)等の原稿もお待ちしています。

メールでの投稿は、macchitti@gmail.com に、

郵便での投稿は、〒930-0887 富山市五福 3734-3

NPO 法人 文福 『まっち』編集係

まで送って下さい。よろしく願いいたします。

尚、『まっち』を一読されてみたい方、文福事務所に常時置いてあります。または上記に記した連絡先にご連絡ください。

『まっち』編集者一同

2022 年 10 月 18 日 運営会議報告

【各部からの報告】

◇**学習会** 9月予定だった上映会を急遽取りやめた「私の中のあなた」を観る会を11月26日(土)に行います。

◇**障害者部会**・コロナ禍で8,9月お休み。

・会員が銭湯から入浴を拒否され取材を受けた記事と国連の障害者計画の現状と発表に対して日本の障害者が100人以上が参加したという記事の読み上げ。

・重度訪問介護のパンフレットを各地区センターなどに郵送。

・市電の電停や地鉄のバス停についての調査の発表。

・障害者がマイナンバーカードを申請した時の問題の報告。

◇**介護・介助者派遣事業部** 今、ザ★カイジヨの研修の最中。

◇**レクリエーション部** オンライン飲み会を10月中で日程調整中。

◇**障ちゃんニュース発行部** 発送作業と編集会議25日(火)にやる。

◇**まっち発行部** 11月に仕上がる予定。責任者が吉田から中村に交代。

【事務局より】

◇事務所のコピー機が新しくなり、用紙サイズによる取替が不用になった。

◇車を1台購入。「ノア」に決まり契約終了。納車は4月か5月になる。

【その他】

◇「障」ちゃんニュースについて 今年からニュース発行を2か月に1回にしたが、ページ数が減っても毎月発行の方が良いという意見がある。編集会議で検討し、次回運営会議で報告する。

◇レクリエーションについて レクリエーション(夢宙人)の会員で、文福のレクリエーションを今後どうやっていくか話し合っはつきりさせる。

◇お知らせ 事務局

・サンフォルテ協賛団体受講必須のDV防止啓発講座の参加者を募集。

・新しいホームページの大枠ができ皆さんに見てもらいたい。松岡まで。

次回運営会議は、11月17日(木)午後2時からサンフォルテにて。

報告者 大野

運営会議報告

(11月17日 現在)

【各部からの報告】

●学習会

9月にできなかった上映会を 11 月 26 日（土）に予定している。

●障害者部会

大野さんが銭湯の件で新聞に載った反響で、立山鉦泉から、「貸切での利用ができます。」と連絡があった。それを受け大野さんが挨拶をしてきた。

●介護・介助者派遣事業部

試用期間を終えて正式に正職員になるスタッフがいる。

第 2 期のザ・カイジョが訪問実習まで終了した。

●レクリエーション部

11月中にオンライン飲み会をしたい。

●ニュース発行部

次号のニュースは新年号になる。印刷は 12 月 16 日までに終わらせる予定。

●まっち発行部

11月上旬に 24 号が発行できた。次号テーマは「時代」

・障ちゃんニュースについて

メンバーで会議した結果、しばらくは 2 カ月に 1 回のペースで発行する。

・レクリエーションの今後について

レクリエーション部が何をしているか把握できない人が増えてきたため何か皆が参加できる企画した方が良い。

・冬季賞与と年末年始の事務所休みについて

冬季賞与は 12 月 1 日に支給。

年末年始の事務所休みは 12 月 29 日～1 月 3 日まで。

・事務所移転について考えていく。

・大掃除について

今年は 12 月 13 日（火）に行う。

・冬季期間の運営会議について

コロナ禍と雪の為、1 月 2 月は行わない。

● 次回は、12 月 20 日（火）

報告者：吉田健太

ありがとうコーナー

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年もよろしくお祈りします。

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



新しい年 2023 年がやってきました。
みなさん、明けましておめでとうございます。
皆さん、今年のお正月はどのようにお過ごしで
しょうか？

今年こそは、コロナは収まってくれることを祈
っています。予報では、大雪になるという事です
が、どうでしょうか？

差し当たって、あまり大雪にならないことを願
っている今日この頃です。 (アパッチ)

* 2022 年度新規会員・継続会員 *

保坂 和哉さま 青木 麻衣子さま 山形 路子さま 野澤 美代子さま
京谷 昌厚さま 大塚 聖也さま 山口 久美さま

* カンパ *

青木 麻衣子さま

* いただきもの *

野尻 (大家) さま 中川 希世さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぷく} 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3
e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp
HP: <http://bunpuku.org/>

TEL / FAX (076) 4 4 1 - 6 1 0 6

定 価 50 円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。